

民話

—西光寺の地藏菩薩—

田口西光寺には高さ41センチメートルのすわったお地藏さんがあります。

ある年のこと、ひどい疫病えきびょうがはやりこの辺りあたには生きていないといわれるくらいにたくさんの人たちが死んでしまいました。一晩ひとばんのうちに命いのちをうばう疫病はコロリ病といわれ、とくに小さい子どもの命をうばいました。



【地藏菩薩】

そんなある日の夕方、一歩歩いては止まり、止まってはまた一歩進む一人の母親すすがいました。うでには小さな子どもをだいていましたがすでに死んでいました。母親もそのままばったりたおれてしまいました。それを見たお坊さんぼうさんが母親のもとで「仏心チホー」ととなえました。母親も同じようにとなえましたが死んでしまいました。しかし、ふしぎなことに、母親にだかれていた子どもがいきをふきかえました。右手で天をさし、左手には数珠じゆずをもっていました。そして、そのまま天にのぼり菩薩になりました。その時からこの地方にコロリ病がなくなったといわれ、地藏菩薩のたんじょうとなりました。